



移住者名	川口
都道府県	東京都 小笠原村 父島
移住先	東京都 三鷹市⇒小笠原村 父島
移住年	2008年
職業	スポーツインストラクター⇒村役場公務員
家族構成	単身
移住形態	1ターン

## Q. 移住したきっかけは？

前職時、沖縄など島巡りをしていたのがきっかけで離島に興味を持ちました。そして、たまたま知人の親戚が小笠原に住んでいるということで、小笠原での暮らしについて、話を聞くことができました。話を聞いているうちに小笠原という場所は、船でしか行くことができない「遠隔離島」であること、それでも小中高、診療所などインフラが整備されていることを知りました。

ただ島には住む場所（住宅）がほとんどなく、島民の多くが集合住宅に住んでいることもわかりました。そんな時、たまたま手に取った東京都広報に「小笠原村職員募集」を見つけました。

今思うと、そのタイミングが全てでした。

思い切って応募し島で試験を受けた結果、合格をいただき縁あって職員住宅付で島に住むことが出来ました。縁ということでは、一人で移住した私が、島での出会いもあり今は子供二人とともに生活しています。移住のきっかけが、人生の転機になったと感じています。

## Q. 移住の際不安に思ったことは？

「不安はなかった」といえば嘘になりますが、島に住めるという、嬉しさから不安は感じなかったです。ただ、いざ出発となったとき「新たな職、全く一人からのスタート、次はいつ帰れるんだろう」といった不安が頭をよぎりました。

しかし、「もう、決まってしまったことだから」と開き直って、船に乗ったことを覚えています。そして25時間半（今は24時間）の船旅の後、試験で訪れた地「父島二見港」が見えた時、名前入りの横断幕を持った多くの職員の出迎えを受けました。その時不安はなくなりました。なんでも新たなことを始めるのに不安はつきませんが、一步踏み出すこと、そして受け入れることで不安は小さくなり、そして消えていくものだと感じた瞬間でした。

今でも、仕事と生活の間で度々、ストレスや不満はありますが、周りの人との関わり、そして何よりも大自然の中で生活しているという満足感で楽しく過ごすことができています。

## Q. 移住して良かったことは？

何よりも、生活が安定したこと。

仕事もそうですが、生活リズムがとてもいいです。都心では夜型の生活を送っていましたが、小笠原に来てからは、朝日とともに起き、夜は早く寝る習慣が身に付きました。一日一日がとてもリズムカルに過ごせています。小笠原には、商業施設、コンビニ、24時間営業の店はありません。住み始めは不便だと感じましたが、すぐに慣れます。今では夜の時間に、浜辺で星を観ながらのんびりできるという、島ならではの最高の自分時間を過ごすことができています。

もう一つ良いところは、体を動かす習慣があること。

もともとスポーツインストラクターという職で体を動かしていた私が島で就いた仕事はデスクワーク。しかし、島の週末は野球やサッカー、海でシュノーケリング、夕陽を眺めに山を登ったりと、運動不足にはなりません。島では大人から子供まで世代を超えて楽しんでいること。そして何よりウエルカムなところが良いところです。



## Q. 移住を考えている方へメッセージ

まずは、「島のことを、島の人に」、色々聞いてみてください。

インターネットで情報収集するのも良いですが、やはりその島で生活をしている人と話すことが一番だと思います。そうすると、島の良いこと、悪いこと、住宅や生活環境、仕事や休日のことなどがわかります。

ちなみに、小笠原の休日は、公務員以外「土、日」ではないって知っていますか？

その理由は、「おがさわら丸」が父島にいないときが休日になるからです。私は公務員ですが、来島者が仕事関係者の場合、休日が変わることがしばしばです。

そんな島ならではの特殊事情も聴くことができます。

あとは、「タイミング」が大事だと思います。その日、その時に出会ったことが、縁なんだと実体験で感じました。

最後に、思い切って、一度行ってみる。行動できれば、いい方向に向かうと思います。

それでは、アイランダーの会場でお待ちしています。